

I) .縁切りの重要性

なぜ縁切りは必要なのか

新築時には、屋根材上下かさなり部に隙間があり、雨水の排出、屋根材裏面の通気がある程度できるようになっている。

新築から8年～10年後くらいに、経年劣化を防ぐために塗装改修することが多いが、その場合において、塗料で屋根材上下かさなり部を密着させてしまうことがあり、屋根材の縦突合せ目地部から浸入した雨水が排出できなくなり、屋根材裏面に水分が溜まってしまふ。また、屋根材上下水平方向かさなり部からの毛細管現象も発生させてしまう事がある。きちんとした縁切り作業がおこなわれていないと、屋根野地板の腐朽や雨漏りの原因を引き起こす事があります。(下の画像参照)

「縁切り」作業をおろそかにすると・・・



左の画像のように、屋根材上下かさなり部の塗料でふさがれている箇所を開けてみると、溜まっていた水分が流れ出てくる。(雨降り二日後)

この溜まっていた水分が、屋根下地の腐朽や雨漏りの原因となることが多い。

木造住宅の大敵は「水分」・・・従来の工法と比べて

- 皮スキやカッター等での縁切りでは、塗膜が剥がれてしまう不具合や、屋根材コグチ部が破損し毛細管現象を引き起こす原因になることがあった。
- 塗装完了後、翌日の縁切りでは、屋根材裏面に入り込んだ塗料が完全に乾いていない場合が多いため、再びかさなり部が密着してしまうことがある。
使用する塗料または時期や天候によっては、二日後でも縁切りができない場合がある。
- 責任施工が厳しくなる中、家カルテ（建物履歴書）、リフォーム瑕疵保険加入等の視点からも、建物躯体に水分が回り不具合が起こらないように施工することが、最も重要となります。